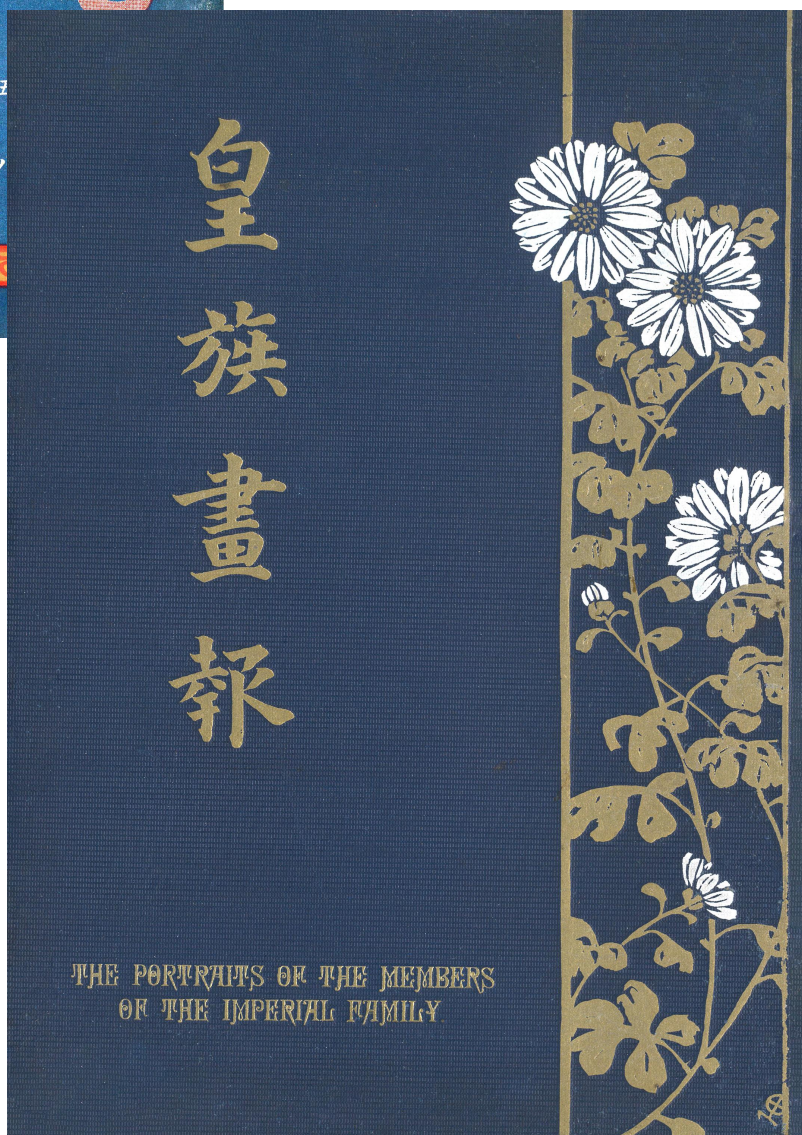
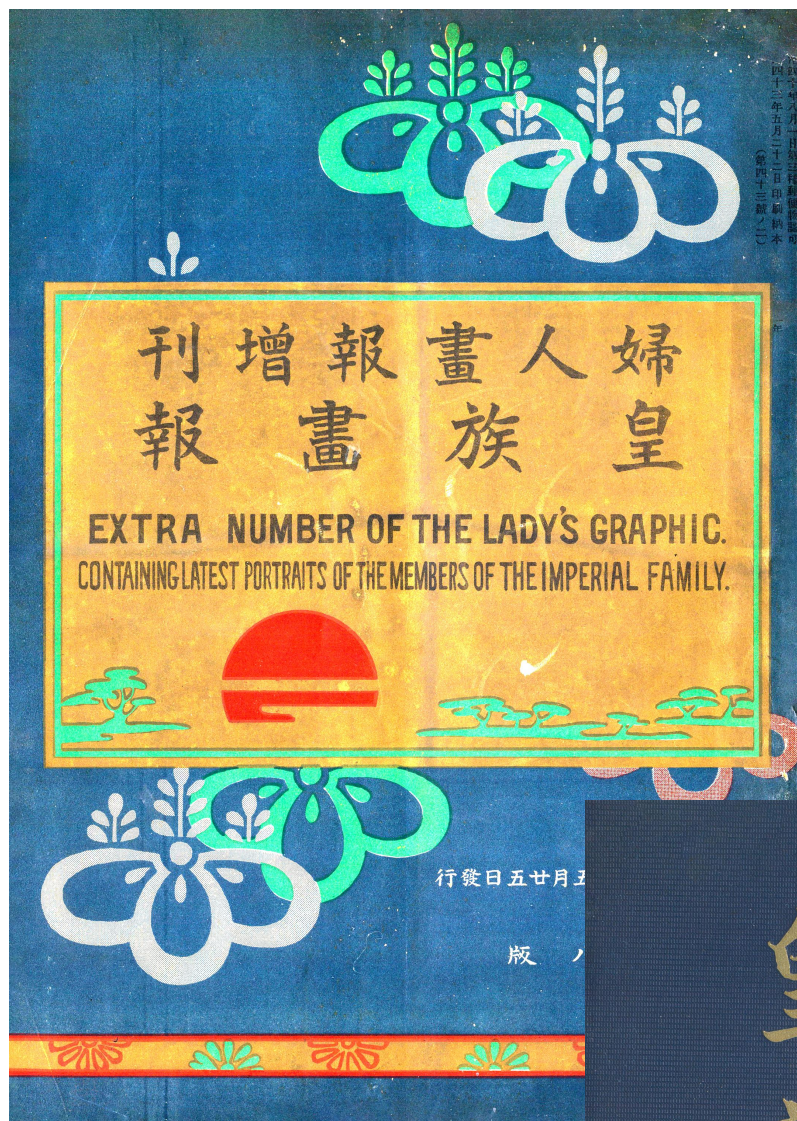


『皇族画報』電子書籍 復刻版 ページ見本





皇族圖書報目次

(版八第)行發日五廿

- 東久邇宮裕彥王殿下
- 小松後室宮賴子殿下
- 北白川宮成久王殿下
- 北白川宮周宮房子內親王殿下
- 北白川宮輝久王殿下
- 北白川宮武子女王殿下と撫子女王殿下
- 竹田宮恒久王殿下
- 天皇陛下の御日常
- 皇太子殿下と妃殿下
- 三皇孫殿下
- 泰宮聰子內親王殿下
- 有栖川宮殿下
- 伏見宮殿下
- 垂頂宮殿下
- 山階宮妃殿下
- 賀陽宮妃殿下
- 東伏見宮殿下
- 久邇宮殿下
- 梨本宮殿下
- 朝香宮殿下
- 東久邇宮殿下
- 小松後室宮殿下
- 北白川宮殿下
- 竹田宮殿下
- 閑院宮殿下
- 東伏見宮殿下
- 東伏見宮依仁親王殿下
- 東伏見宮周子殿下
- 竹田宮妃常宮昌子內親王殿下と恒德王殿下
- 閑院宮親王殿下と恭子女王殿下
- 春仁王殿下
- 閑院宮妃智惠子殿下と茂子、孝子、寛子三女王殿下
- 北白川宮武子女王殿下と撫子女王殿下
- 竹田宮恒久王殿下

△讀物▽

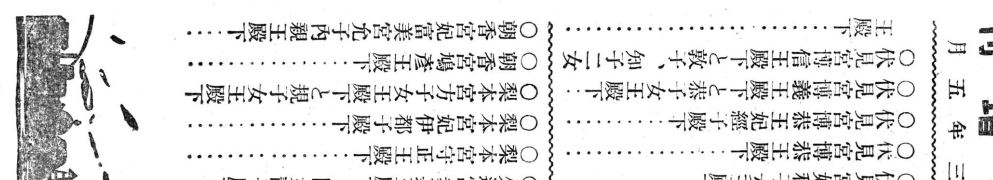


婦人畫報增刊

月五年三十四治明

- 天皇陛下
- 皇后陛下
- 皇太子殿下
- 皇太子妃殿下
- 退宮裕仁親王殿下
- 淳宮雅仁親王殿下。光宮宣仁親王殿下
- 下
- 泰宮聰子內親王殿下
- 有栖川宮威仁親王殿下
- 有栖川宮妃慈子殿下
- 伏見宮貞愛親王殿下
- 伏見宮利子女王殿下
- 伏見宮博恭王殿下
- 伏見宮博義王殿下と恭子女王殿下
- 伏見宮博信王殿下と敦子、知子二女王殿下
- 華頂宮博忠王殿下
- 山階宮武彥王殿下
- 故山階宮菊麿王妃常子殿下
- 山階宮芳禮王殿下と安子女王殿下
- 山階宮藤藤、萩藤、茂藤三王子殿下
- 山階宮恒德王殿下と佐紀子女王殿下
- 賀陽宮由紀子女王殿下
- 久邇宮邦彥王殿下
- 久邇宮妃悅子殿下
- 久邇宮朝融王殿下と邦久王殿下
- 久邇宮良子女王殿下と信子女王殿下
- 久邇宮多嘉王殿下と同妃靜子殿下
- 梨本宮守正王殿下
- 梨本宮妃伊都子殿下
- 梨本宮方子女王殿下と親子女王殿下
- 朝香宮鳩彦王殿下
- 朝香宮妃富美宮允子內親王殿下

△畫報▽



皇族畫報改版に就きて

皇室の御事は申すも畏し。皇族の御繁榮にましますこと、洵に現代の如きはあらざる可し。金枝玉葉の御身を捧げて國事に盡瘁し給ひ、以て範を臣民に垂れさせ給ふ。其の御徳の高く、御績の深き、我帝國安寧の礎、士氣の源、一に其の御上に繋れり。我等臣民たるもの焉んぞ感泣せざるを得んや。いかてこの未曾有の御盛事を永遠に記念せずして可ならんや。

編者曩に微力を顧みず、尊き御面影を一に集めまゐらせ、國民をして日夕仰き拜さしめんとの微衷より、敢て當局に請ひ奉りて皇族畫報を發行するや、幸に國民の歡迎する所となり、版を重ねること七度に及び、遂に印刷鮮明を缺くに至りたれば、或は尊嚴を瀆しまつるを慮ひ、暫し江湖の要求に背きて、頒布を中止する事となしぬ。

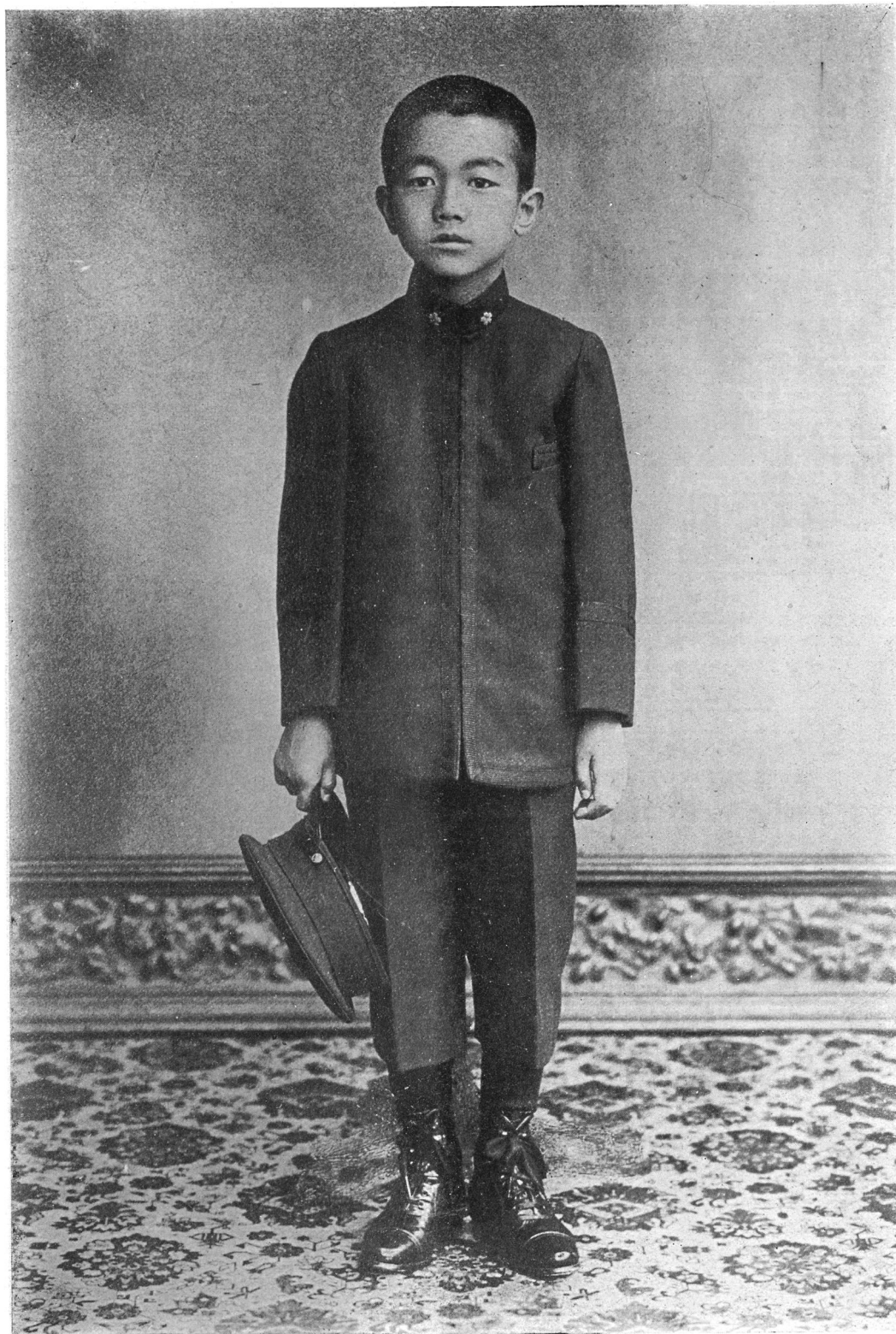
爾來茲に三年、皇族方に御移動あらせられたると、且は誠忠なる國民の要求頗る切なるものと促かされ、今回更に各皇族家に請ひ奉りしに、最近の御眞影御貸下の恩命を拜するを得たるを以て、謹みて事に當り、改訂第八版を刊行するの光榮を擔ひぬ。尙記事は、編者參候の上、親しく拜聴謹記したるものなれば、甚たしき誤謬なきを信ず。聊か改版の顛末を告ぐると共に、我忠勇義烈なる國民に對して、この一書を捧ぐることを喜ぶ。

天 皇 陛 下



H. I. M the Emperor.

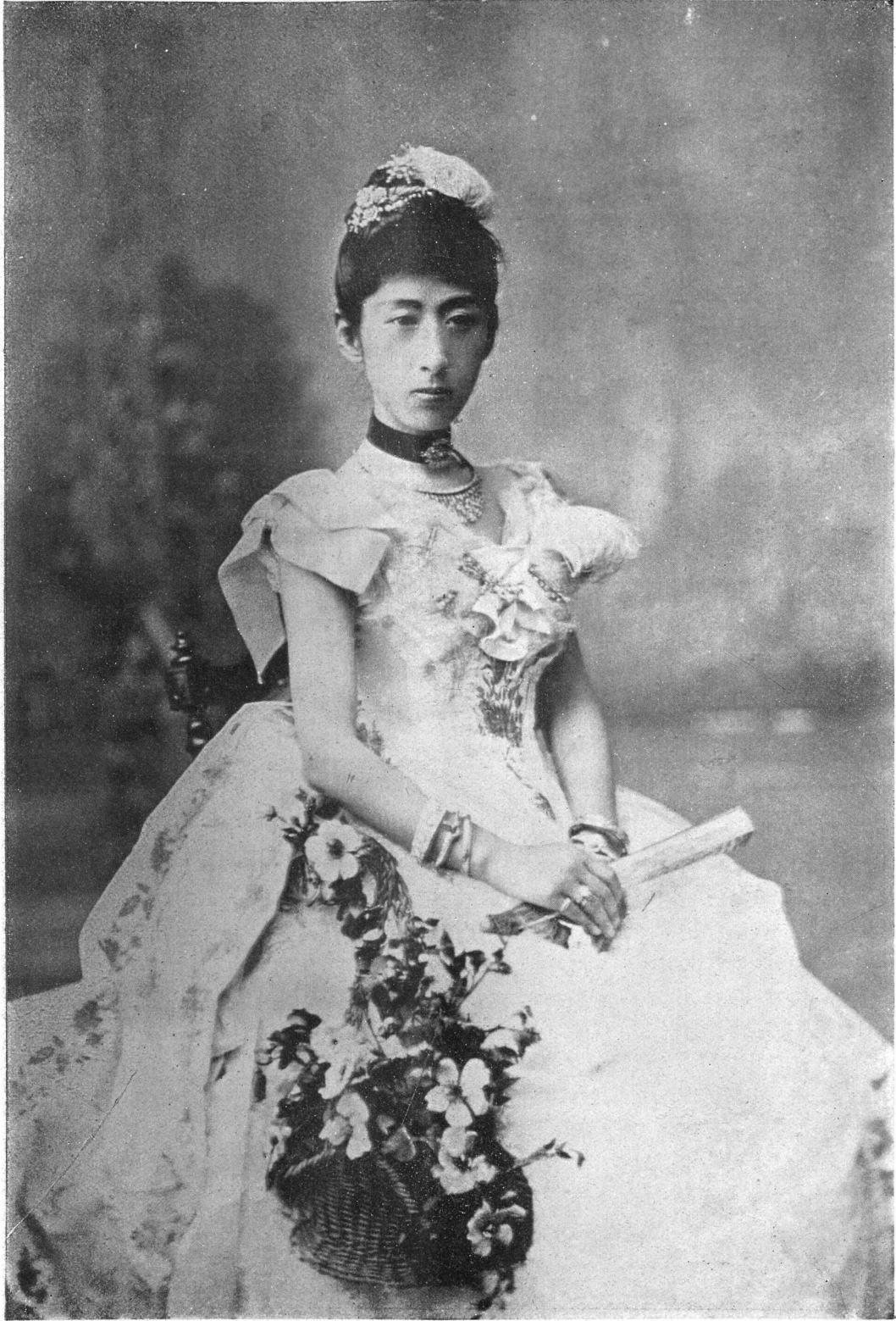
下 殿 王 親 仁 裕 宮 迪



皇孫迪宮裕仁親王殿下は皇太子殿下第一王子に在しまし、御誕生明治三十四年四月二十九日、御年九年一月。

H. I. H. Prince Hirohito Michinomiya.

(等・勳) 下殿王女子利妃宮見伏



伏見宮妃利子女王殿下は熾仁親王殿下の第四女に在しまし、御誕生、安政五年戊午五月二十一日（陽曆七月一日）御年五十二年十月。

II. I. H. Princess Toshiko Fushiminomiya.

天皇陛下の御平常

初日の影は麗かに日本全國の隅々にまで照り渡り、松竹の飾り八十餘州の到る處に立て並べて、貴きも賤しきも、老いたるも若きも、皆推なべて、君が代の春末長かれと祈り奉らざるは無し、千代田の城の老松に、九重の雲深く立ち罩めて、陛下の御日常の如何に在すかは、我等草莽の微臣の窺ひだに得ざる處なれど、今茲におふけなくも陛下の御近狀を初め奉り、大内山の御便りをば、洩れ伺ふまに―書き集めて、我が五千餘萬の同胞に閃麟の一片たりとも紹介し、謹んで陛下の御成徳を仰ぎ奉らんとす。

陛下の御起床

我が賢明なる 聖上陛下の御政務に御精勵なるは申すも畏きことなれど、今御起居を承まはるに、聖上陛下には炎暑燠くが如き盛夏の砌にも、寒威肌に砭する嚴冬にも、御政務にいそしみ給ふの餘り、避暑、避寒なんどの事あらせられず、午前六時と申すに御起床あらせられ、白羽二重の夜の御衣を同じき單衣に召し更へさせられ、御口嗽所へ出てさせ給ふ。午前七時に御



皇后陛下の御食事

皇后陛下の御食事は日々御常式の外に御好みはあらせられず、鯛の作り身、嫁菜の浸物などを好ませ給ひ、朝には御常式の御膳部にさへ御箸をつけ給はず、僅かにパンと牛乳とを召上らせらるゝ由。又西洋料理は御陪食などのある時の外は召させられず、時としては蠣、又は芝蝦を衣揚げと稱してフライの如くに調理したるものを一種位御加へにならるゝ事もあり。魚類にては鯛興津鯛などを好ませられ、御献立の中には必ず御加へになり、御汁は朝に白味噌を進めまゐらすれば、次には三州味噌を用ゐられ、毎日三回とも調理法を換へて進め奉る例なる由にもれ承はる。

陛下の御理髪

陛下の御理髪は永き間、子爵綾小路有良氏が御用を承つて、御眞影にて拜し奉る様の御形に御理髪あらせられしが、子爵永眠の其後は某老女官に仰せられ給ふ由にて、御理髪は一週毎に、龍顔は隔日毎に剃らせ給ふ御定め由に洩れ承る。而して下様の如くに、時流を追ふて、佛國風、米國風などゝする事なしと、御側近く奉仕する去る宮中職の方の御話なり

兩陛下の御運動

聖上の御運動は近來政務多端の爲め、御乗馬、御弓などは遊ばせられず、只時々自動の木馬に

皇太子殿下

御 畧 歴

殿下は、今上天皇陛下第三の皇子に在まし、明治十二年八月三十一日の御誕生なり。御兄皇子御二方あらせられしが、御不幸にも御早世遊されしをもて、明治二十年八月三十一日東宮宣下あり、同二十二年十一月三日立太子の式を挙げられて、皇太子に立たせ給へり。

殿下は明治二十二年に陸軍少尉海軍少尉に任ぜられ給ひ、大勳位を帯び、近衛師團に屬したまへり。それより、二十五年に中尉に、二十八年に大尉に、三十年に少佐にと言ふ御順序にて現在に陸軍中將海軍中將に御進昇遊ばされたり。

御學問は明治二十年九月十九日、八年二ヶ月の御齡をもて學習院に御降學あらせられ、八年間御通學遊されたり。以後は各侍講が、和漢洋の御學問を日課として侍講申し上げたり。

御通學時代に御學友として撰まれし少年は、伯西郷從道四男從義、公毛利元徳八男八郎、伯南部利恭長男利詳、侯細川護文二男護全、男高崎清風二男益彦、子北小路俊頼二男、子海江田

影撮御スグンフイス



埃及カイロなるスフィンクスを御撮影遊ばさるゝ皇太子殿下。

The Crown Prince snapshotting the sphinx at Cairo, Egypt.

ふまたを手握に女孫相首英



皇太子殿下が英國首相別邸にて首相の孫女に握手をたまふ光景。

The Crown Prince shaking hands with the grandson of Mr. Lloyd George. From the left:—The Crown Prince, the Premier's grandson, Mrs. George, Prince Kan-in, Count Chinda. Mr. George is just behind the Crown Prince.

有栖川宮

威仁親王殿下の御事

殿下は故一品熾仁親王の第四の王子にまします。明治二十八年御兄宮熾仁親王の御薨去遊ばせし後、御跡をつぎて御當主とならせらる。

殿下は幼き日、夙くも身を海軍に投じたまはんと雄々しくも御決心遊ばされ、明治十年の頃、遠く英國に御渡航あり、同地の海軍兵學校に御入學遊ばされ、御卒業の後は、同國の軍艦に乘組み、實地の御練習を積みたまひぬ。其間の御苦辛伺ふにも畏き事少なからず。

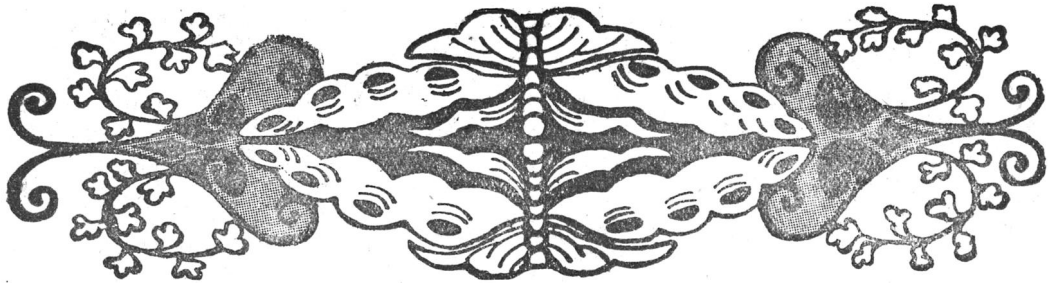
其當時の事なり、我が國の某大官、官命にて歐洲を歴遊し、歸途地中海を通過せしに、某港碇泊の地中海艦隊の旗艦の上、殿下のましますとの事をたましく聞き、拜謁を請はんとして訪問せり。其旨を通ずれば、殿下には今御勤務中なれば、暫く待たれよとて、其間艦中を巡視せしめたり。大官は最後に、石炭庫のある暗き船艙の方に至りしに、朦朧たる燈火の中、煤にまみれたる一哨兵の銃を手にして立てるがあり。案内せる長官、「暗中に珠玉あり」と眩く。大官は何事かと近寄り見れば、今長官に對して捧銃の禮を行ひつゝあるは、何ぞ思はん此れ我が殿

下殿公鍋李（等一勳）下殿妃同（等一勳）下殿公塙李

李塙公殿下は李太王殿下第二王子に在りし、御誕生、明治十年三月三十日
 同妃殿下は男爵金思源氏の女に在りし、御誕生、明治十一年十二月二十二日
 李鍋公殿下は李塙公殿下第一王子に在りし、御誕生、大正元年十一月十五日



T. H. Prince and Princess Riko (right and upper) and Prince Riku (left).



昌 德 宮

李 王 妃 殿 下

殿下は李太王殿下の第一王子にまします。御母君は閔后と申し、御同腹の御兄弟としては在さざりしかば、御父母兩殿下の御寵愛一方ならず、常に御側を離させ給はず、戸外の御運動さへも容易に許され給はざりしとぞ。

されば殿下は父王殿下故淳妃殿下に對し奉りて御孝心深くましまし、父王殿下の仰せには何事も背かせ給はず、又御異母の御弟殿下に對しても御友愛に富ませられ、朝鮮京城なる昌德宮は常に靄靄たる和氣に満ち給へり。

殿下は明治四十年に韓國皇帝の御位に即かせ給ひしが、同じき四十三年八月日韓併合條約の結果御退位あり、特に先帝陛下の御優詔に由りて朝鮮王族の殊遇を受けさせられ、永く昌德宮と稱せられ給ふ。

李 王 妃 殿 下

彙報

▲朝香宮富美宮兩殿下御成婚式典

五月六日午前九時朝香宮鳩彦王殿下、富美宮允子内親王殿下には御成婚の大禮を擧げさせ給へり。麻布御殿にては五日夜より桂御養育掛以下徹宵御準備に忙しく、内親王殿下には六日未明御起床あるや直に御沐浴あり、御髪を長髯御童に改め給ふ、この時宮中より高倉典侍、主上の御使として参る、御化粧の事了りて御妹宮聰子内親王殿下と共に豆入りの御祝御飯を召させられ、七時唐衣に御召更へあり、桂氏初め御用掛御附の人々に御別れの賜を賜ふ、頓て朝香宮より宮岡御用取扱、市村家令御迎へとして参る、御婚儀係に酒饌を賜はり、八時殿下には御裳を高倉典侍に捧げさせて、御玄關に御出であり、御馬車に召し給ふ、御馬車に菊桐織出したる自紋綴子張蠟色塗に菊の御紋章打ち、車輪は緋塗にて馬の鬃には紅白のリボン閃いたり、八時廿五分餘りに御門を出てさせ給ふ。高輪邸にては朝香宮殿下午前五時御起床、七時御束帯を改めさせ給ひ、暫し御休憩の上、玄關に御出であり八時十分、と云ふに山田御附武官陪乗、騎馬警部を先驅とし、儀仗兵前後を衛りて儀裝御馬車にて御出門あらせ給ふ。

賢所大前には午前八時十分を以て岩倉掌典長各掌典出仕御式の備を整へ、皇族大臣其他文武の高官夫々着席す、さて午前九時式部職樂師の奏樂の間に兩殿下賢所に参り給ひ神酒拜受の御儀あり御式めだたくりて御内儀謁見所にて、兩陛下を拜し給ふ、天顏殊の外麗はしく御手厚き御誼あり、姉小路權典侍、小池掌侍執酌にて九獻の天盃を賜はり同十時廿五分宮城を退ん出給ふ。

十一時廿分兩殿下高輪邸に御還りあり、供膳式を擧げ給ふ、正午兩殿下御邸内御靈殿に御拜あり、午後零時廿分兩殿下御召更あり表謁見所にて祝賀を受け給ひ御内儀にて御査察を召したり、午後一時三十分、天皇、皇后兩陛下より日野、西侍従、小池掌侍を、東宮同妃兩殿下より有馬侍従、錦小路主事を又各宮家よりも夫々御使を高輪邸に遣はされ各御祝品を進めらる。

午後五時十分鳩彦王殿下には御正装、妃殿下には水色御洋装にて御馬車に御同乗、御参内、豊明殿御宴に列し給ふ、皇族文武高官午後五時頃より前後して参内あり、兩陛下豐明殿に臨御、洋々たる歐洲樂の間に御宴あり、御宴酬にして、主上親しく玉盃を兩殿下に賜はり、陪宴の方々齊しく皇室の御繁榮を祝き奉り、七時五十分、兩陛下入御あり續て一同退出す、八時二十分兩殿下御還邸、御更衣の後御少憩ありて御寢室の御祝儀あり、御盃終り妃殿下には淡紅色紋羽二重の御振袖に召代させ給ひ、三日夜餅奉進の御儀ありて御大禮茲に全たく終はらせられたり

▲皇孫殿下西ヶ原御成

皇孫迪宮淳宮兩殿下には閑院宮春仁王久邇宮邦久王兩殿下及び學習院初等科二三學年生徒七十餘名と五月九日府下北豐島郡瀧ノ川村西ヶ原肄業講習所及び農事試験場へ成せられたり

皇孫殿下には同日午前七時丸尾御養育主任御陪乗、松平、佐久間兩御用掛、田中侍醫補の御供等二輛の御馬車にて御出門御順路を田端停車場手前に出でさせられ夫れより御徒歩にて瀧瀧山八幡境内に成らせらる、一方春仁王殿下は増田御附邦久王殿下は保科家從を隨へさせられ學習院學生と同じ三等室にて田端驛まで御乘車同所より一同徒歩にて前記八幡境内に着したるは皇孫殿下の御着より約廿分の後なりし

かくて一同と共に講習所に赴かせらる途次各教授等は受持の組々に夢の話を爲しつゝ西ヶ原肄業講習所に入らせらる同所には所長本多博士以下職員及農商務省よりは下岡農務局長其他の人々御玄關前に整列して御出迎へ申上げ四殿下は本多所長の御先導にて樓上設けの御休憩室に其他は階下の大標本室にて休憩の後各室を御巡覽の上御用意の御茶饌を召させられたり

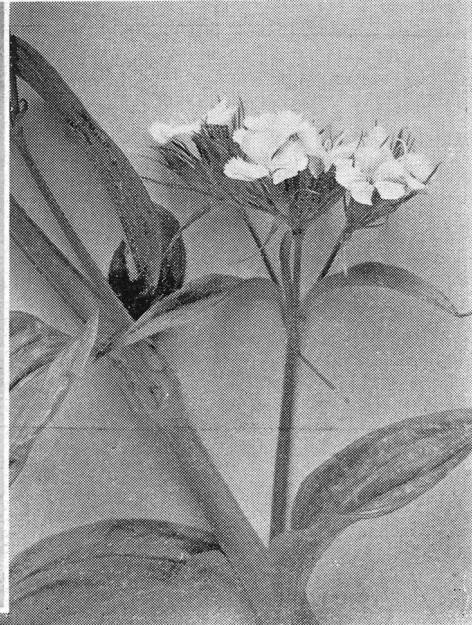
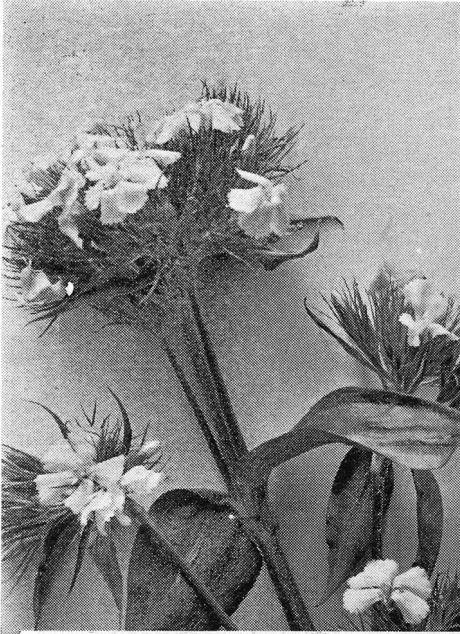
▲愛國婦人會總會

愛國婦人會にては五月九日午前十時三十分より日比谷公園に於て第九回總會を開催したるが偶々英國皇帝陛下崩御の事ありて行啓仰せ出されたる皇后陛下には俄かに御中止の旨御沙汰あり従て總裁閑院宮妃智恵子殿下下に名譽員に在ます各宮妃殿下にも悉く御台臨なかりき。

式は振鈴に依りて開かれ會長岡部子爵夫人、副會長阿部伯爵夫人理事濱尾男爵夫人三輪田眞佐子乃白柳橋綱子評議員鍋島侯爵夫人近衛未亡人其他十數名顧問岡部法相閣下貴族院議員松井閣下宮家令等式壇の上に整列すれば黒き喪服を着けたる總裁閑院宮妃殿下御用掛吉田榮子は恭しく皇后陛下の御命令を金時給の折敷に捧げて正面玉座の錦の卓上に安置すれば會長岡部子爵夫人代演尾理事開會の辭を宣し同會顧問馬屋原氏會計報告をなす右終るや岡部會長恰も陛下の在すが如く玉座

北白川宮武子殿下と下殿王女子擴と

全北白川宮武子殿下は故能久親王殿下第三王女に在し、御誕生、明治二十三年三月二十八日、御年二十二年二月。
擴子殿下は第四王女に在し、御誕生、明治二十八年五月二十八日、御年十五年。



T. I. H. Princesses Takeko and Hiroko Kitashirakawanomiya.